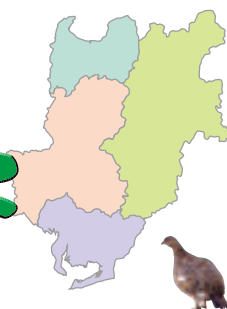




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>



(シカ柵設置の様子)

南アルプス仙丈ヶ岳のシカ柵作設により

高山植物の復元を目指す

(P2に関連記事)

主な項目	○ 高山植物保護とニホンジカ対策 P 2～3
	○ 小・中・高校の児童・生徒が国有林見学と体験学習 P 6～7
	○ 風景紀行「霊峰・劔岳」..... P 12



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

高山植物保護とニホンジカ対策

お花畑の復元を目指して 南アルプスにニホンジカ防護柵設置

【南信署】近年、伊那谷ではニホンジカによる食害が増大しており、高山帯にまで拡大している状況となっております。

このため高山帯で生息するライチョウもついでに、登山者の目を楽しませてくれるお花畑の高山植物も食害され、ニホンジカがあまり食べないマルバダケブキばかりが目立つお花畑になってきています。

「花の仙丈」ではなくなってきたことに危機感を抱いてきた当署では、昨年の九月に設立された南アルプス食害対策協議会（会長・伊那市長）と協働し、八月七日から九日にポランテア約三千名が参加し、仙丈ヶ岳周辺（馬の背付近）の



みんなでニホンジカから高山植物を守り「花の仙丈」復活を！

お花畑に、三箇所合わせて長さ約三三〇メートル、約〇・二センチの柵を設置することとしました。

また、三〇〇メートル級の南アルプスにおける初の試みであり、風雪や温度変化などの影響については未知であることから、設置に当たっては、「ポール・ネットなどを全部残すタイプ」、「ネットだけを撤去するタイプ」、「全部を撤去するタイプ」の三タイプに分け、冬期間の防護柵に対する風雪の影響も調査することとしています。このネットは、従来のステレンスのタイプに比べ、持ち運びが容易なようにポリエチレンのネットにステンレスを編みこんだもので、軽くニホンジカにも噛み切られないように設計されています。ネットの色は、信大農学部竹田助教（農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー）の指導も仰ぎ、ライチョウなどの動物にも視認性を良くするためオレンジ色としました。また、登山者へ設置目的を知らせる看板も設置します。

八月七日、防護柵の設置に先立ち北沢峠において発足式を行い、伊那市長と南信署長の「花畑を取り戻しましょう」との挨拶を受けた後、ポランテアの皆さんとともに仙丈ヶ岳に向かいました。

お昼ごろには全員が現地集合し、流域管理調整官の全体説明の後、各班に分かれ設置を開始しました。二日間かかると思われていた作業ですが、ポランテアの皆さんの頑張りで、初日ではほぼ完成

へと近づきました。二日目には、冬期対策の補強などを行い、昼過ぎには完成の運びとなりました。自分たちで設置した柵を見てポランテアの方々は達成感一杯で、「この柵の設置により、以前のお花畑に戻って欲しい」との言葉を口々に語っていました。南信署もこの声にこたえるため、今後も柵のメンテナンス、柵の増設などを行っていくこととしています。

貴重な高山植物を守ろう

【富山署】七月十三日、連合とやま富山地協の構成員約五十名が参加して、立山黒部アルペンルート沿いの天狗平周辺で貴重な高山植物を守るため、外来植物除去作業を行いました。今回の作業は富山地協から地域ポランテア活動として森林に関わる作業を行いたいとの申し出があり実施したもので、昨年続き二回目となります。

当日は、標高二、三〇〇メートルの天狗平駐車場に集合し、県自然保護協会の講師から「外来植物除去のしおり」を教材に、外来植物とは何か、高山植物との見分け方、除去するときの注意等の説明を受け、三班に分かれて作業を行いました。参加者は高山植物を傷つけないように注意し、根を完全に除去するのに苦労している様子でしたが、講師の指導により徐々に慣れ、約二時間の作業で



外来植物除去作業を行う参加者

セイヨウタンポポやシロツメクサなど約三、三〇〇株を除去しました。午後からは、室堂平を散策しながら講師から、地名や植物名の由来や植生の生育環境の厳しさなどについて学びました。

また、七月十五日には、名古屋シティフォレスト隊員十四名が参加して、アルペンルート沿いの大観台から室堂にかけて外来種除去作業を実施しました。

今回は、愛知県や長野県からの参加者が半数以上を占めていましたが、疲れも見せず熱心に作業に取り組んでいました。

当日は、天候に恵まれ、雄大な立山連峰が眺望でき、室堂平では、残雪の上を歩きながらライチョウの親子連れを観察できるなど、参加者は満足そうに帰路につきましました。

ニホンジカ捕獲 本格実施はじまる

〜始動〜ワナ捕獲チーム

〔南信署〕管内に広がるニホンジカの森林被害を防止するため、長野県の策定する特定鳥獣保護管理計画に沿って行われる個体数調整に協力出来ればとワナ設置を行うこととしました。

四月に管内を諏訪・上伊那・下伊那の三地域に分けそれぞれに所在する森林事務所でチームを結成し捕獲計画の検討を重ねてきたところ、今回、下伊那チーム（豊丘・阿智・上村・和田・大鹿の各森林事務所）が県・市町村・猟友会の協力を得られ本格的にワナを設置することとなりました。

七月二十八日、下伊那「国有林・有害獣ワナ捕獲」チームの関係職員十四名が大鹿村大河原国有林に集まりチームとしての活動を開始しました。

当日は、チームリーダーの豊丘首席森林官から取組の趣旨や昨年の試みで署全体でニホンジカ二十六頭の捕獲があったことなどの説明があり、大鹿森林官から昨年の経験を踏まえ三種類のワナの仕組み、取り扱い方、仕掛ける場所の選び方等を学び、猟友会員から実技指導を受け実際に各自がそれぞれのワナを掛ける練習をしました。ワナは繊細なため苦労しながらも設置技術を習得しました。参加した職員は自分たちが守り育てた森林



シカワナ設置方法を説明する大鹿森林官

のニホンジカ被害を目的の当たりにしていることから真剣なまなざしで取り組み、十一個のワナを設置できました。

今後、下伊那チームは設置・見回りをチームで連携して行い、秋から冬にかけても各事務所管内でワナ設置をします。また、諏訪・上伊那チームでも実施する予定です。

管内の森林は、南から北に向かってニホンジカ被害が広がっています。特に諏訪地域ではここ数年で樹木の皮剥き・食圧による被害が広がり、また、南アルプスのお花畑では豊かな草花が単一種の植生に変化するなど観光産業を含め地域の大きな懸案事項になっています。山小屋関係者からも「十年、二十年前のお花畑

長野・岐阜両県協働して 御嶽山森林保全合同 パトロールを実施

を知っているお客さんから花の見頃を聞かれ、シカの食害により以前と様変わりした様子を伝えるのに苦慮しています」との声も聞かれています。捕獲数的には小さな取組ではありますが、豊かで美しい森林を取り戻すため、さらに地域と連携し、種々のシカ対策を推進することとしています。

〔木曾署・岐阜署〕 霊峰御嶽山を管理する木曾署・岐阜署は、八月十二日、飛騨頂上五の池周辺において合同パトロールを実施しました。

当日は、快晴の中、グリーンサポートスタッフ（森林保護員）、木曾、岐阜署関係者七名が参加し、登山者へパンフレットを配布するなど高山植物等保護への協力についての呼びかけを行いました。

また、三の池の登山道には高山植物保護のためのグリーンロープを設置しており、古くなったロープの張り替えや新たな進入禁止ロープの設置、立入禁止看板を新たに設置するなど森林保全活動も併せて行いました。

また、御嶽山登山シーズンは「グリーンサポートスタッフ」を配置し御嶽山におけるきめ細かな森林保全活動（ゴミの投棄、森林への踏み荒らし、高山植物の



登山者にパンフレットを配付する参加者

「効率的な間伐の 実施に向けて」 現地検討会を開催

摘み取り、登山道荒廃などの防止）に取り組んでいます。引き続き、両署の連携を強化し、御嶽山一帯を共通の意識を持って保護・保全活動を行っていくこととしています。

〔中信署〕 七月十七日、間伐作業を効率的に実施するため、路網と高性能林業機械を組み合わせた「低コスト・高効率作業システム」の現地検討会を当署管内の湯川国有林で開催しました。

当日は、請負事業実行中の林業事業者や民間事業者と、各署の実務を担当する職員等総勢三十一名が参加し、スイングヤーダ、プロセッサ、フォワーダ等の高性能林業機械による作業仕組等の検討を行いました。



スイングヤードによる集材作業

参加者からは現地の状況に即した路網整備を行うことの重要性や、採材方法などについて意見・質問が出されました。引き続き翌日には、森林整備部長及び局販売課の担当者と各署の実務担当職員との打合せ・意見交換等、局全体で低コスト作業システムを推進していくための会議を行いました。

低コストで高効率な作業システムの導入及び普及は、林業経営の復活とともに地球温暖化防止森林吸収源対策を推進するためにも必要なことから、局管内の各署で現地に適合した作業システムの試行に取り組んでいます。

当署としても、管内の状況に即した「低コスト・高効率作業システム」を確立して参りたいと考えています。

地元の森林を多くの人に

【東濃署】八月一日、当署において、特定非営利活動法人「NPOつけち」の早

川正人理事長と東濃署の鶴田署長による「青川源流の森」における保全・整備等の活動に関する協定の調印式が執り行われました。

この協定は、平成十五年に制度化された「国有林内における民間団体の多様な活動を推進するための協定」に基づいたものであり、「NPOつけち」からの森林整備や自然散策等を通じて、地元の森林をもっと多くの人に知ってもらいたいとの強い要望を踏まえ、面積約六五〇畝の協定が締結されました。

今後は、加子母裏木曾国有林内の協定区域である付知峡自然休養林や木曾ヒノキ備林を中心に「NPOつけち」が主体となつて、遊歩道や案内標識の整備、自然観察や体験林業など様々な活動が展開されていく予定です。



協定締結を終えて（早川理事長と鶴田署長）

教職員研修会を実施

教職員を対象とした

森林・林業体験学習研修会を開催

【指導普及課】児童・生徒の指導者である教職員の方々に、森林・林業に対する知識を深め、総合学習のプログラム作成等の参考にさせていただくことを目的に「森林・林業体験学習研修会」を、中部森林管理局管内の各地域において開催しました。

◆木曾地域

【木曾森林環境保全ふれあいセンター】

八月四日、木曾郡上松町「赤沢自然休養林」において長野県（木曾地方事務所）共催による、木曾地域の小・中学校の教職員を対象とした森林・林業体験学習研修会を開催しました。

午前中は、休養林屈指の木曾ヒノキ美林「奥千本」まで、往復二時間三十分の行程を歩き、ヒノキ林木遺伝資源保存林についての学習や休養林内の植物の自然観察を行い、午後は、間伐の必要性、熊被害の現状等説明をした後、ヒノキ人工林内での間伐作業を実施し、ロープや木廻しを使用した伐倒作業や伐倒木の枝払い、玉切り、集積作業等、慣れない作業に先生方は大いに汗を流しました。

木曾地域の研修会は、平成十七年度から実施しており、今回で四回目となりま



間伐作業体験の様子（木曾地域）

すが、毎年楽しみにしていただいているリピーターの先生方もおり、地域の学校の間でもかなり定着してきたと実感できる研修会でした。

◆愛知県瀬戸市「名古屋事務所」

「先生も勉強します」

～森林環境教育研修会～

八月六日、瀬戸市の小学校教職員を対象に、森林・林業体験学習研修会を開催しました。この研修は、森林・林業の大切さ、厳しさや、自然とふれあうことの楽しさを体験し、学校の授業等に活かしてもらおうことを目的としています。

当日は、瀬戸市教育委員会からの募集により十六名の先生が間伐体験やネイチャーゲームに取り組みました。午前中は「国有林の概要」、「美しい森林づくり」、また、シテイ・フォレスト事業やふれあい講座など「名古屋事務所の取組を分かりやすくまとめた資料等でプレ



間伐体験の説明、デモンストレーションの様子 (瀬戸市)

ゼンテーションを行いました。
その後、間伐について説明し、炎天下の中、間伐体験で大汗を流しました。午後は一転、激しい雷雨となり、屋内で愛知県ネイチャーゲーム協会会長の青山裕子氏による「ネイチャーゲームの実践」として「自分も自然の一部であることの気づき」や「相手の状態やテーマに合わせたプログラムの考え方『フローラーニング』」などについて、楽しみながら学びました。雷雨による急な内容の変更でしたが、青山氏の対象者や状況を考えて分かりやすい指導により、有意義な研修会となりました。

一日を通して、先生方からは「森林の手入れがこんなにも大変だとは知らなかった」、「早速、学校の授業に取り入れたい」などの意見がありました。締め括

りの意見交換でもあまりの熱心さに予定時間をオーバーすることとなりました。

◆松本地域

【指導普及課】 八月七日、松本市「美ヶ原高原」において、松本地域の小・中学校の先生方を対象とした森林・林業体験学習研修会を開催しました。

最初に中信署松本森林事務所森林官による管内の国有林や美ヶ原高原の概要等の説明、共催者である長野県松本地方事務所の普及係長から美ヶ原高原周辺における県の事業や森林税についての説明が行われました。続いて動植物の観察を行いました。標高二、〇〇〇以上の高原いっばいに咲き誇る高山植物の花々に参加された先生方は目を奪われていました。

先生方は午後に入り、間伐作業とネイチャークラフト作製を体験し、伐採作業では、慣れない作業に汗だくになりながら一生懸命に取り組んでいただき「間伐作業は、普段では全く体験できないもので、有意義でとても貴重な体験」「木や森を育てる大変さや手入れをすることの重要性を実感した」といった感想が聞かれました。

また、ネイチャークラフト作製では、先生方全員が童心にかえって、「子供たちに見せたい」と意気込みながら、素晴らしい作品を作り上げていました。終了後、先生方から「今回の研修会で

体験したことを生徒たちに伝えたい。体験させたい」、「出前授業（森林教室）をお願いしてみたい」との声もあり、今後、学校での授業や野外学習等、様々な機会を通じ、森林や自然の大切さや、研修会で学んだことを、多くの子供たちに伝え、教えていただくことをお願いし解散となりました。



自然観察中、植物の説明に聞き入る先生方 (松本地域)

◆伊那地域

「木曾森林環境保全ふれあいセンター」

八月八日、南信署管内の手良沢山国有林及び伊那市の信州大学演習林において長野県（上伊那地方事務所）共催による、森林・林業体験学習研修会を上伊那地域の小・中学校の先生方を対象に開催しました。

午前中は、上伊那地方事務所林務課から管内のシカ対策、伊那森林事務所森林官からは、ニホンジカ被害対策の現状について説明があり、その後、ヒノキ造林地において除伐Ⅱ類作業についての説明及び安全指導、スタッフの指導による除伐Ⅱ類作業体験を行い、午後は、信大農学部小林准教授による「植物の光合成と森林の二酸化炭素吸収」という題目で講義・デモンストレーションが行われ、大変中身の濃い充実した内容に、参加された先生方は大変満足の様子でした。

伊那地域での開催は初めてでしたが、来年度以降の継続開催に向けて更にPRを行っていくこととしています。



伊那森林官よりシカ罾の説明 (伊那地区)

小・中・高校の児童・生徒が 国有林見学と体験学習

中学校の生徒が治山現場を見学

〔富山署〕 七月七日、職場体験学習で上市町役場に実習体験していた富山県上市町立上市中学校二年生三名が、役場職員の見学により、白萩川流域の治山現場を事業所主任から富山署の概要や業務内容を説明した後、治山事業の目的やえん堤工（床固工）などについて説明を行い、説明後に生徒から、「工事費が億円？」「えん堤は、どうやって造るの?」「川の流れは、どうやって変えるの?」など多くの質問が出され、治山事業に対し大きな関心を示していました。また、山腹工事の現場では、高所法面掘削機による法面掘削を行っており、あまり見ることができない機械や作業に生徒や同行の役場職員も興味深そうに見学をしていました。残念なことに生徒から「富山森林管理署という役所を初めて知りました」との声があったので、「上市町の森林の内三十八割が国有林で、富山署が管理していることも覚えておいてね」などと話をし、治山現場の見学を終えました。

今回は、十分なPRができたところですが、国有林・富山署を知らない生徒が



説明に聞き入る中学生

いるなど、これまでのPR不足を感じたところであり、今後も見学会などを通じて、治山事業の積極的なPRに努めることとしています。

本郷小学校児童が「遊々の森 (どすこい山)」で森林整備

〔中信署〕 七月十日、梅雨の晴れ間の中、当署と本郷小学校の間で協定を結んでいる「遊々の森(どすこい山)」で五年生三クラス児童(七十三名)による下刈作業が実施されました。当日は、主催者として松本市、中信署、本郷地区山づくり推進連絡協議会、そして本郷地区財産区の方々等多数のボランティアも参加され、総勢一二二名が集まり開催されました。冒頭、田中署長が歓迎の挨拶を行い、次いで松本森林事務所森林官が鎌で

の下草の刈り払い方及び安全作業について説明しました。その後、児童三クラス七十三名を十八班に分け、ボランティアの方々各班の指導役となり、植栽した広葉樹(コナラ・クリ)の周りの雑草・灌木の下刈作業を行いました。鎌を使用するのが初めての児童もいましたが、わからないところはボランティアの方に教わり一緒に下刈作業を行っていました。

下刈作業終了後は、有明・松本森林事務所森林官による森林教室がクイズ形式で行われました。正解者には、森林官が作製したドングリのネットレスが用意されていたので争奪戦となり、優勝した児童は、ネットレスをうれしそうに首に飾っていました。その後、本郷地区山づくり



クイズに答えてよ

くり推進連絡協議会長さんから作業に対する感想のことがあり、最後に本郷小学校の児童を代表してお礼の言葉がありました。参加した高力君は、「下刈作業を通して学んだことを将来の役に立てたい」、同じく唐沢さんは、「保育園の時山火事があり山に木がなくなりましたが、地域の皆の力で山に木が戻り、今日は故郷の山づくりができました」という嬉しい感想が聞かれました。

上松中学校分収造林地で 除伐作業を実施

〔木曾署〕 七月十五日、上松中学校三年生の生徒約五十名が、上松中学校分収造林地で除伐作業を行いました。

企画については、事前準備から当日の技術指導まで、木曾署職員と上松町役場職員及び中学校の先生方が協力して取り組みました。当日は、スタッフの連絡体制、三十分毎に水分補給のための休憩、蜂刺されや熱中症等細心の注意を払いました。

現地は、ヒノキ造林地にマルバノキやシロモジ等の灌木が覆い茂っており、初めはそれらをかき分けて林内に入ることとまどっていた生徒たちも、作業が進むにつれ、林内が整備されていく様子を見て、次第に夢中になっていきました。慣れない防蜂網をかぶり、鋸を腰に提げた生徒たちは、暑さに負けそうになりながらも作業に励んでいました。



夢中になって除伐作業をする生徒

この造林地では、これまでも上松中 学生による下刈作業等が行われてきました。生徒たちにとっては、日常生活では経験することのできない貴重な体験となり、森林づくりの大変さを実感するともに、その大切さを学習することができました。

これからも、森林を学校教育のための場として積極的に活用していつてもらえるよう、地元自治体・教育機関等と連携した取組を行っていききたいと考えています。

**国有林の仕事に魅力
高校生のインターンシップを実施**

「飛騨署」飛騨高山高校では、毎年夏休みを利用し地域の企業等の協力を得てイ



生徒に刃物の指導をする武田森林官

ンターンシップを実施しており、当署には環境科学科の生徒五名が七月二十八日から三十一日までの四日間実習に訪れ、国有林の様々な仕事を体験しました。実施に当たっては、国有林の魅力を知ってもらい入庁希望を増やす良い機会と捉え、極力現場等の仕事を体験してもらうカリキュラムを組んでおり、今年も治山事業、造林事業のほか、環境保全として乗鞍岳の取組や財産の管理として境界測量などを体験してもらいました。造林では、間伐のチェーンソー実技に加え、下刈鎌の研ぎ方と作業を体験。甲森林事務所上席森林官からの指導に「研ぎ方、刈り方で太いものもよく切れるようになった」と感想を述べていました。また、今回参加した生徒は、八月二日に高山市内の施設で行われた夏休み親子教室「飛騨の樹木で昆虫&ミニ動物づくり

り」にも参加。昨年から始まったこの行事も参加者が大幅に増え、約五十名の親子を相手に大西ふれあい係長、反中技術専門官たちとともにインターンシップで学んだ木工クラブと一緒に取り組んでいました。

なお、同校は技術交流発表会に参加する等国有林への積極的な関わりがあり、担当された穂波輝樹先生からは「生徒の間から、勉強して国有林を受験してみたいという気持ちが出てきた」とのお話があるなど、国有林とのつながりはますます深くなっています。

**「美しい森林づくり」の
担い手育成に向けて
地元林業高校生徒の受入れ**

「南信署」七月二十八日、黒河内国有林の大阿原湿原で、上伊那農業高校緑地工学科の二年生三十四名が木道整備作業を行いました。

これは、将来の「美しい森林づくり」の担い手となり得る生徒たちに、湿原の整備活動を通して自然の大切さを実感してもらおうと、当署が同校からの体験活動の要望に応じて実施したものです。

大阿原湿原は、本州最南端に位置する高層湿原で、毎年多くの人々がトレッキングや自然観察で訪れる場所で、当署では、この貴重な湿原を守るために、昭和四十年代から木道の整備や、グリーンロープの設置等の保護活動を行ってきま



懸命に作業に取り組む生徒たち

した。当日は、黒河内森林事務所森林官をはじめ六名の職員による指導で、湿原を周回する歩道の中で、地面がぬかるんだり、洗われて歩きにくくなった箇所には、カラマツの丸太と板を組み合わせて新たな木道を設置しました。生徒たちは、慣れない手付きで釘打ちや材料切りに悪戦苦闘していましたが、湿原を訪れる人々が安全に散策できる木道を作ろうと、汗を拭いながら懸命に作業に取り組んでいました。同校生徒による大阿原湿原の木道整備作業は、今回で四回目となります。当署では、「美しい森林づくり」に向け、今後このような地域ニーズにも継続的に対応することとしています。

各地からのたより

私たちの森林を育てる

「ガールスカウトの森」の下刈

【北信署】七月六日、ガールスカウト長野県支部の六十一名が戸隠山国有林に設定されている「ガールスカウトの森」で下刈作業を行い、当署からも職員三名が参加しました。

同森林は、平成元年からガールスカウト長野県支部が、「森林の管理を通じて環境について考え、勤労の大切さを知る」ことを目的に、ブナ等の広葉樹を植栽後、下刈、枝払作業を体験林業として続けています。作業開始前に村松署長から森林育成が地球温暖化防止に効果的であるとの話があり、「クールアース・デー」の前日でもあったことから、作業意識が高まりました。

当日は、標高一、二〇〇㍎にある作業



作業後は森林も参加者もスッキリ

地でも厳しい暑さになりました。スカウトたちは、最初は怖々と鎌や鋸を手に雑草を刈ったり枝切りを行っていました。徐々に作業に慣れ、二時間後には先輩から引き継いだ森林は、そよ風が吹き抜ける爽やかな森林になりました。

後日、スカウトたちから作業後に作製した木工クラフトが、感謝の言葉とともに当署に届けられました。

げろ山の日イベントに参加

【岐阜署】八月八日の「ぎふ山の日」に関連して、下呂市主催の「げろ山の日イベント」が、岐阜県下呂市四美にある皇樹の森において開かれました。

このイベントは、市内小学校の児童や、二年前の全国植樹祭の参加者等を対象に「木と友達になりましょう」をテーマに開催されており、岐阜署も「木の持つ楽しさ」を実際に物を作ることで、感じてもらうと参加してきました。

当日は猛暑の中、約六十名の親子連れが森林管理署のブースを訪れ、汗だくなりながらも、様々な作品を作っていました。中には思わず親が手伝い、そのまま親が夢中になって作品を仕上げたり、公園や、森などの空間を見事に作り出すなど、周りで見ていた職員も感心するほどの作品を作り上げる子もいました。

この木工クラフト教室を通じて、木の



作製した木工クラフトを持って

持つぬくもりや、利便性などを再認識してもらい、木材の生みの親である、森林にも関心を持ってもらったことと思います。

「第二八回つけち夢まつり開催」

【東濃署】八月十四日、中津川市付知町にある道の駅「花街道付知」において「第二八回つけち夢まつり」が開催され、当署から七名が参加しました。

このイベントは、お盆の時期に帰省した町民と家族とのふれあいを目的として開催されており、当署も国有林のPRと地元とのふれあいを目的として毎年参加しています。

当日は少し雲がかかったり小雨がぱらついたりしましたが、全般的に晴れ、

蒸し暑い一日となりました。

会場には三十張りほどのテントに地元の特産品販売やゲームコーナーなど様々なブースが軒を連ね、多くの家族連れで大変な賑わいを見せました。

当署が設けたネームプレート作製コーナーには、自分用や土産用にと注文が相次ぎ、木工クラフト教室では、子供たちが様々な大きさの木片を真剣な表情で貼り合わせ、ユニークな作品を完成させていました。

他にも山の仕事や治山に関するパネルクイズでは、回答に悩む子供に職員がヒントを出し、正解が解るとうれしそうな表情を見せていました。

今回新たに加えた、子供を対象とした丸太切り体験は、切った輪切りを秤に乗せ、予想した重さと一致すると景品ももらえるという方式で行い、予想が当たると周囲で見守っていた家族からは大きな歓声が上がっていました。



パネルを見て森林のクイズに挑戦する子供たち

安全・安心な村づくりを

白川村議会が治山事業などで要望

〔飛騨署〕 関越自動車道の関越トンネル（十一・〇五キロメートル）に次ぎ日本で二番目に長い飛騨トンネル（十・七キロメートル）が七月五日に開通し、高山市と白川村の所要時間が約一時間短縮されて四十分程となり、村民の夢であった白川村から高山の高校へバス通学が可能となりました。

この東海北陸自動車道の全通に伴い世界遺産である合掌集落への観光客が大幅に増え、心配された旧国道沿いの平瀬温泉の活性化も見られるなど時間短縮の効果が現れています。

八月五日、白川村の議会が要請行動に來署され、小坂議長を始めとした全議員と谷口村長ほか村担当者、さらには地区選出の中村、川上両県会議員も同席され、国有林野事業に対する要望が出されました。

谷口村長からは「村民の安全・安心に国有林の治山事業は重要。白川村の



挨拶する白川村谷口村長

五十二号は国有林で、崩壊地も多く積極的な治山事業の実施に期待」と挨拶がありました。

懇談の中では大白川の白山・大白川自然休養林の更なる活用や、白川村が防除に取り組んでいるカシノノガキクイムシについて国有林とも連携していく等の話が出されるなど国有林に期待する声がかれました。

当署ではこういった要望のほか、有志協、議会による国有林視察などを通じ、地域の要望をさらに把握し事業に取り組みでいく考えです。

人のういき

林野庁人事(抄) 七月三十一日付

▽退職(南信森林管理署長) 久保田 廣

八月一日付

▽関東森林管理局塩那森林管理署長(中信森林管理署長) 田中 昌之

▽中信森林管理署長(東北森林管理局森林整備部長) 下平 敦

▽南信森林管理署長(東北森林管理局庄内森林管理署長) 竹内正比古

▽企画調整室監査官(名古屋事務所副所長(森林技術センター所長) 中島 仁司

▽計画部森林技術センター所長(森林総合研修所林業機械化センター所長) 川添 峰夫

▽飛騨森林管理署付(企画調整室監査官

(名古屋事務所副所長) 塚腰 進

中部森林管理局人事 七月一日付

▽東濃森林管理署業務第二課付(関東森林管理局森林整備部販売課企画係長) 菅原 章代

八月一日付

▽森林整備部森林整備課設計指導官(東濃署総務課長) 小瀬 弘一

▽北信森林管理署長野森林事務所首席森林官事務代理解除(北信署業務課長) 谷澤 功志

▽北信森林管理署長野森林事務所首席森林官(林野庁国有林野部職員・厚生施設営繕班労務厚生係長) 白木 智

▽東信森林管理署付(森林整備課設計指導官) 木島 通雄

▽東濃森林管理署総務課長(林野庁国有林野部職員・厚生課給与・手当班給与管理係長) 長瀬 貢

▽林野庁出向(林政部経営課組合事業班事業推進係長) (北信署黒姫森林事務所森林官) 坪川 直子

▽林野庁出向(国有林野部経営企画課事務管理班情報企画係長) (総務部総務課秘書係主幹(総務担当愛知森林管理事務所) 山下 広

▽豊邦森林事務所森林官(愛知森林管理事務所) 併任(田口森林事務所上席森林官(愛知森林管理事務所) 鈴木 健二

▽総務部総務課秘書係主幹(総務担当愛

知森林管理事務所)(森林整備部販売課企画係主幹(収獲担当愛知森林管理事務所) 門原 秀人

▽森林整備部販売課企画係主幹(収獲担当愛知森林管理事務所)(計画部国有林野管理課企画係主幹(管理処分担当愛知森林管理事務所) 安田 智宏

▽計画部国有林野管理課企画係主幹(管理処分担当愛知森林管理事務所) 伊藤 淳

▽森林整備部販売課生産係(北信署業務課管理係長) 志水 俊幸

▽北信森林管理署総務課経理係長(木曾署総務課経理係長) 越 秀寿

▽北信森林管理署業務課管理係長(北信署水内森林事務所森林官) 原田 光基

▽北信森林管理署水内森林事務所森林官併任(北信署野沢森林事務所森林官) 田中 学

▽北信森林管理署黒姫森林事務所森林官(中信署業務課土木係長) 倉石 明典

▽中信森林管理署業務課土木係長(木曾署業務第二課土木係長) 奥原 英

▽木曾森林管理署総務課経理係長(北信署総務課経理係長) 神島 雄治

▽木曾森林管理署業務第二課土木係長(南信署業務第二課土木係長) 井口 剛

▽飛騨森林管理署業務第一課付(飛騨署業務第一課森林ふれあい係長) 大西 沙織

▽南信森林管理署業務第二課土木係(木曾署南木曾支署業務課土木係) 菅沼 伸行



段戸弁天沢：施工後8年経過

「平成十九年度
中部森林技術交流発表会
優秀賞受賞課題」を紹介3

愛知所における木材を利用した
治山構造物について

愛知所 治山主幹 萩原 伸也
治山主幹 光坂 紀治

一 はじめに

愛知所では、平成十年度から間伐の促進と間伐木の有効利用を図り、木材の特性を生かした自然に優しい工法として、溪間工での木材利用を実施してきました。

木製治山構造物を設置し始めて十年程度経過したことから、木材の腐朽状態に



打込抵抗法による調査

ついて調査しました。

二 経過

平成十～十六年までに木材を使用し施工した谷止工、護岸工等木製構造物（計五か所、八工種）の現況を調査しました。

調査方法は、定性的な方法（目視、触診、打診）と、定量的な方法（ピロディンを用いた打込抵抗法）を用い、両調査結果を総合的に判定することとしました。

三 結果と考察

木材に軽度の腐朽が確認されましたが、構造物の機能上特に問題がありませんでした。

また、水に浸されている部分については腐朽の度合いが小さいこと、皮付き丸太の方が皮剥丸太に比べ腐朽しやすいこと、定性的調査の結果と定量的調査の結果には相関関係があること等が分かりま



段戸裏谷：施工後9年経過

した。

四 まとめ

間伐材をはじめとした木材を利用することには大きな意義があり、引き続き積極的な間伐材等の利用と推進に取り組んでいきます。

シリーズ
現場最前線

「木曾森林管理署 南木曾支署
与川森林事務所」

「木曾森林管理署 南木曾支署
与川森林事務所」

「木曾森林管理署 南木曾支署
与川森林事務所」
我々が造林班の現場は、長野県木曾郡南木曾町・木曾川左岸に位置しています。国有林内の多くは風化花崗岩で形成されており非常に崩れやすく、雨が降った次



林道維持修繕を行う班員

の日は崩落、落石、洗掘によって林道が通行不能になることが頻繁にあります。そのため大半が水源かん養保安林・土砂流出防備保安林に指定され、水源かん養・山地災害防止機能を高度に発揮させるための施業に取り組んでいます。

班員は五名（臨時一名含む）で、仕事は速く丁寧で、森林官の指示のもと林道維持修繕や各種造林作業、林分の調査等森林官の補助的な業務を行っています。

周辺には民家が多く、地元住民の安全を守るためにも造林班は誇りを持って日々の職務に励んでいます。また、同じ地区に住んでいる者同士という事もあり公私共に付き合いが深く、業務を離れても森林官を含め酒を酌み交わしながら楽しく交流しています。

これからも、国有林で働く者として責任感や誇りを持ち、怪我や病気に気を付けて職務に励んでいきます。

実験林・試験地等紹介

シロクズ 26

助六実験林



「森林技術センター」木曽谷地域の湿性ポドソル土壌を中心とするせき悪な土壌地帯において、ヒノキ天然林の更新施業技術体系の確立を目指した事業的規模の実験により、木曽ヒノキを生産目標とする施業体系を確立する目的で、昭和六十三年に助六実験林を設定しました。

助六実験林は、長野県木曽郡王滝村の王滝国有林に位置し、面積は約九十二畝、標高は約一、四〇〇m、土壌型は湿性鉄型ポドゾル、林齢が約二六〇年の木曽ヒノキを主体にヒメコマツ、ネズコがそれぞれ二割程度混交した針葉樹林で、下層にはチマキササガが繁茂しています。

実験の内容は、同村の三浦実験林をはじめとするヒノキ天然更新施業実験の成果を基本として設計し、伐採については、三浦実験林での五割保残群状母樹法の結果から、母樹法を用いると風倒による母樹亡失の危険が高いため、風が強い助六実験林においては漸伐法を用い、伐採率を五〇から七〇割として予備伐と下種伐を同時に行うこととしました。また、三浦実験林の列状交互孔状更新試験を応用し、市松模様となる列状交互孔状

伐採も取り入れ、平成三年から順次伐採しました。

更新については、チマキササガが繁茂していることから薬剤によるササのコントロールを行うこととしました。三浦実験林よりササの丈や繁茂の度合いも少ないことからテトラピオン粒剤を用いササを抑制することとしましたが、ササ密度の高い箇所については部分的にササを刈り払う地表処理を併せて行いました。薬剤散布は、伐採時にヒノキ稚樹の発生・定着が容易となるよう伐採の数年前に事前に散布し、伐採後においてもササの再生状況を観察しながら、抑制し更新を促しました。

現在の更新状況は、伐採後十五年以上経過した漸伐法で二〇割以上のヒノキ



漸伐法の保残木の状況



列状交互孔状伐採の状況

稚樹が、鈴当たり四万本を超え、一割程度のササ丈を超えたヒノキ幼樹が生育して更新完了基準に達した箇所もあります。また、少ない箇所でも鈴当たり二千本程度あり、二〇割未満を併せれば十分に更新に必要なヒノキ稚樹が存在しています。

列状交互孔状伐採については、伐採後七年の経過で、林床には更新に十分な稚樹は見受けられませんが、更新完了の基準まで生育していません。現時点では伐採方法の評価は出来ない状況であり、今後についてもササをコントロールし、更新を促すこととしています。

実験において、更新良好な要点としては、現在も母樹から種子を供給し続けていることや、伐採後において風倒による



漸伐法の更新の状況

母樹の減少が適度な光環境をつくっていること、また、ササのコントロールが適切であり雨滴障害もなく種子が定着しヒノキ稚樹を保護しながら共存出来ていることが考えられます。

このように助六実験林では、三浦実験林の天然更新施業技術を応用する中で確実に更新技術の解明が進んでおり、ポドゾル土壌地帯における木曽ヒノキの更新技術を検証できる試験となっております。現在の樹齢三百年前後の木曽ヒノキからすれば未だ十分の一にも及ばないことから、今後も長い期間のデータ蓄積が必要と考えています。

◇所在地：長野県木曽郡王滝村

王滝国有林二一五六に林小班外



霊峰・劔岳

「富山署」富山県のシンボルと言えは立山。その立山連峰の首座をなすのが劔岳です。青黒くゴツゴツとした岩肌、鋭く切れ込む谷。その強烈な山容をアピールして美しいスカイラインを見せます。

劔岳は、古くから山岳信仰の山であり、「人間登るべからず」といわれ、前人未踏の山とされてきました。劔岳に記録上初めて登ったのは、明治四十年七月、柴崎測量官率いる陸地測量部の一行で、その時に頂上で錫杖頭と鉄剣が発見されました。劔岳は我が国の近代登山の発展の重要な舞台となり、アルピニストらが垂直の壁に挑む憧れの山となつていますが、登山口に建つ「試練と憧れ」の塔がその厳しさを物語っています。

なお、劔岳山頂の「劔嶽社」は半世紀ぶりに建て替えられ、八月七日に正遷座祭が営まれました。

登山基地・馬場島

早月国有林から流れ出る立山川と白萩川の合流地点に馬場島があり劔岳の登山口として知られています。ここから仰ぐ劔岳はまるで覆い被さるように対峙し圧巻です。四季折々に変化する劔岳や早月川の清流などの景観は壮大で美しく、一帯には青少年旅行村や馬場島荘などが整備され、キャンプやハイキングに多くの人が訪れます。

また、馬場島荘には、早月国有林の治山事業を紹介した富山署のジオラマやパネルが展示され関心を集めています。

信仰が息づく霊場

大岩山日石寺 (上市町大岩)

日石寺は奈良朝末の神亀二年(七二五年)に、高僧行基によって開かれたといわれ、古くから真言密教の総本山として栄えてきました。本尊は凝灰岩の一枚岩に、右手に「降魔」の剣をとり、左手に「三昧」の羅策を持つ像高三メートルの不動明王座像を中心に四体の像が半肉彫りで彫られた磨崖仏(国指定重文)で、中部地方における最高傑作として高い評価を得ています。

眼目山立山寺 (上市町眼目)

立山寺は曹洞宗大本山総持寺の二祖峨山禅師の高弟・大徹宗令禅師が建徳元年(一二七〇年)に開創した古刹で、越中大本山として多くの修行僧が座禅道場と

して歴史を重ねてきました。山門に連なる長い参道には、杉並木に続いて、天正年間に能登から苗木を取り寄せ植えたと言われる樹齢約四〇〇年、幹廻り三メートルの榎並木(県指定天然記念物)が一〇〇メートルほど立ち並び、長い歴史を偲ばせています。周辺は、哲学の道として遊歩道も整備され親しまれています。

◆アクセス

自動車
北陸自動車道立山インターから馬場島まで 約五十分
大岩山日石寺まで約十五分
眼目山立山寺まで約二十五分



馬場島から仰ぐ劔岳



日石寺の磨崖仏



立山寺の榎並木

行事・会議等の予定

- ◎名古屋シティ・フォレストアー事業
9月6・20日 木曾署管内
- ◎飛騨署管内
9月27日
- ◎国有林モニター現地視察
9月27日 北信署管内
- ◎木曾川・森づくりin赤沢
9月27日 木曾署管内